

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Predicting recurrence of basal-cell carcinomas treated by microscopically controlled excision. A recurrence index score	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における Mohs 法後の再発予測. 再発指標スコア	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ18-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	7298981	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	10	
	ページ	807-810	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0148-0812	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1981		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rigel DS	New York University Medical Center
	その他著者 1	Robins P	
	その他著者 2	Friedman RJ	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の 8項目	目的	基底細胞癌における Mohs 法後の再発危険因子を同定し、リスクグループを設定する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の 1 大学病院	
	対象者	基底細胞癌 2960 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	性別、年齢、腫瘍径、部位、Mohs 法のステージ数、前治療の 6 因子を説明変数、5 年再発の有無を目的変数として、単変量解析と多変量解析 (重回帰分析) を施行。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5 年再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	症例全体の 5 年再発率は 2.6%であった。単変量解析 (カイ二乗検定) では 6 因子のいずれも再発との有意な関連を認めた。これら 6 因子を共変量として重回帰分析を施行し、得られた偏回帰係数を再発指標スコアとして算出。合計のスコアにより、‘リスクなし’ ‘低リスク’ ‘標準リスク’ ‘高リスク’ までの 4 段階のリスクグループを設定し、それぞれの再発率は 0、0.7、2.6、10% (平均の 4 倍) であった。		
結論	再発の高リスクグループの症例については、さらに広範囲の切除と十分なフォローアップが必要。		
備考			
レビューワー コメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 症例数が多いために、6 因子の中でも腫瘍径、発生部位などもカテゴリーが細かく分けられている。しかし本邦では Mohs 法自体はほとんど行われていないので、この 6 因子によるリスクグループ分類をそのまま持ち込むことは困難かもしれない。	